「対話と実行」座談会　高校との座談会
第２回「高知県立四万十高等学校」（H22.06.29）の概要

１．開会

教頭：　第２回高校生との『対話と実行』座談会を始めたいと思います。
それでは開会にあたりまして生徒会長からご挨拶をいたします。

生徒会長：　本日は、四万十高校へお越しいただきありがとうございます。全校一同、今日を楽しみに待っていました。

四万十高校は、たくさんの自然に囲まれた、のびのびとした学校です。とても小さな学校ですが、生徒一人ひとりにパワーがあり様々な活動に取り組んでいます。昨年は、『全国自然環境サミット』が四万十高校で開催され、全校生徒が一丸となって取り組みました。今回の尾崎知事の訪問に向けても、生徒会を中心に準備を進めてきました。時間の許す限り交流をすすめていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

２．知事あいさつ

司会：　尾崎高知県知事よりあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

知事：　こんにちは。四万十高校の皆さん、今日は温かく私たちを迎えてくださいまして、どうもありがとうございました。

（昼食の）料理もおいしかったし、そこから後、四万十川に行ってコクヨの森へ行く間、それぞれの場所で担当の人が決まっていて、その場所でちゃんといろんなことを説明してくれて、よくわかりました。こういうのをきちっとやり遂げるということは大変なことだと思うんですけど、皆さん、それをきちっとやられていること、本当に感心をしました。ありがとうございました。

今日は、皆さんと「対話と実行」座談会ということでお話をさせていただきたいと思っております。

地域の食材を使った昼食会

私は、高校生の皆さんといろいろお話をさせていただく中で、新しい考えを皆さんから教えてもらうことを楽しみにしているんです。もうひとつは、高校生の皆さんたちに、やはり世の中、社会というものについて、ものすごくいろんな関心をもってもらいたい。そういう思いもあって、「対話と実行」座談会を、高校生の皆

さんとさせていただいているところです。

【高知県の現状と産業振興計画について】

皆さんが生まれ育った高知県。（生徒さんの中には）県外の方からおいでになっている方もいらっしゃるとお聞きしましたけど、皆さんのいるこの高知県は、たくさん良いものがあるところです。いろんな日本一が、高知県にはあります。

日照時間全国第１位、降雨量全国第１位、森林面積割合全国第１位。

山に降った雨が、すぐ山を駆け下っていって川に流れていくような、そういう地形で清流が育まれ、そして海が豊かです。だから、山のものも海のものも、非常に食べ物のおいしいところとして、有名なところです。

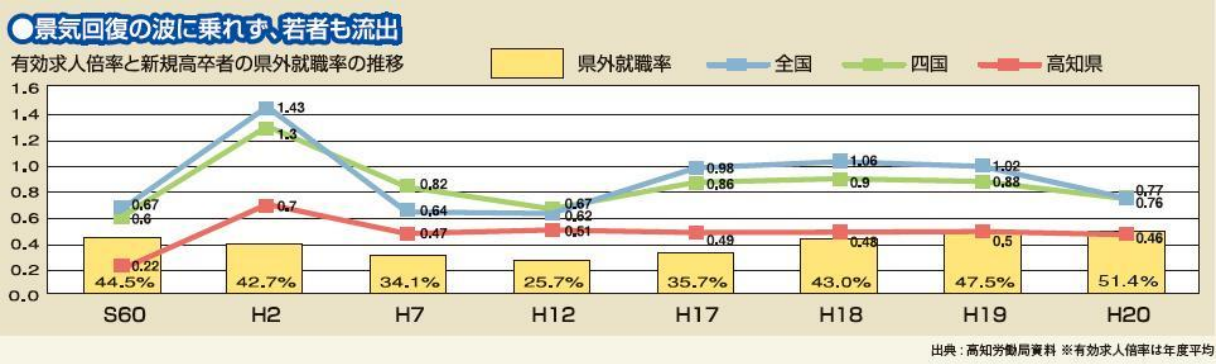
高知県には、客観的なデータがあります。いろんな旅行雑誌の会社のアンケート調査によると、高知県は食べ物のおいしい所、２００７年全国第１位、２００８年第２位、２００９年第２位です。だから、高知県は鰹のタタキをはじめとして、海のものも山のものにしても、おいしい所なのです。

そして、もうひとつは、今、大河ドラマ「龍馬伝」が放送されています。高知県には、幕末維新の時、その後の自由民権の時代、さらには戦国時代にも、日本史の中に誇るべき歴史があります。

全国的にも有名な四万十川を抱いている豊かな自然環境があり、おいしい食べ物があって、そして素晴らしい歴史も持っている。本当に誇るべき県だと思っています。

けれど、その高知県が今、非常に厳しい状況におかれているのもまた確かです。皆さん、高知県産業振興計画というパンフレットの１ページを開けてください。どのように大変かということについて説明します。

１ページの下の折れ線グラフが、有効求人倍率というものについてのグラフです。



仕事を探している人が１人いた時に、その人に対してどれだけ仕事があるかを表すのが有効求人倍率です。有効求人倍率のグラフが１を超えると、１人に対してひとつ以上仕事があるということになるので、非常に景気が良いということになります。でも、それが０．５ということは、１人に対して０．５しか仕事がない。すなわち２人に対してひとつ分の仕事しかないということを意味する。あまり景気がよくない状態

ということを意味します。

赤い折れ線グラフが高知県。そして、青い折れ線グラフが全国の数字です。平成１２年から平成１９年ぐらいまでにかけて、青いグラフのほうは、ぐーっと山が大きくなって良くなっていますが、その間、高知県は全く変わっていないんです。平成１２年から平成１９年というのは全国でも、ものすごく好景気だった時期なんです。けれど、その間、高知県だけは景気が良くならなかった。そういう状況がずっとここ１０年くらい続いています。

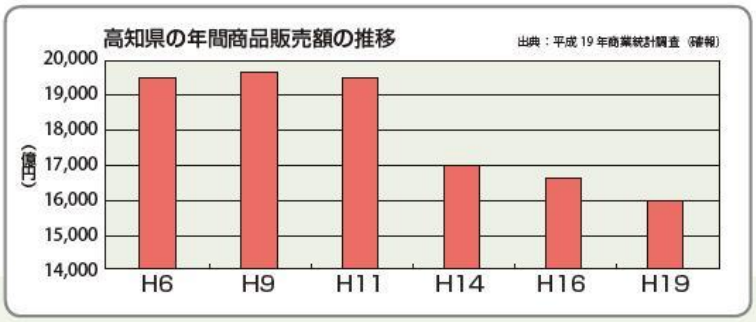
何でそういうことになってしまったのか。いろんな原因があると思いますけれども、最大の理由は人口が減っていて、もうひとつは高齢化が進んでいるからです。

高知県は平成２年から人口が減り始めました。８４万人いた人口が、今、７７万人を切るぐらいまで人口が減っています。これから、更に８％から１０％ぐらい減るだろうと言われているところです。

人の数が減ると、例えば、それだけ履くズボンの量が減る、スカートの量が減る。だから、その分、物が売れなくなるんです。まして高齢化が進むと、若い世代が一番お金を使うから、例えば、若い皆さんたちのほうが、おじいちゃんおばあちゃんよりたくさんご飯食べるでしょう。だけど、そういう若い世代の数が減っているので、その分、物の売れ行きが少なくなっています。

（産業振興計画のパンフレットの）１０ページに、高知県の中で、年間どれだけ商品が売れたかということを表しているグラフがあります。平成９年、大体、高知県内で商品は２兆円ぐらい売れていました。今、売れている額は１兆６０００万円くらいまで減っています。ピークの２割くらい減っている。こういうかたちで人の数が減ったことと、高齢化が進んだことによって、高知県内の経済規模というのは、どんどん、小さくなっている。だから、全国がどんなに好景気でもなかなか高知県は厳しい。商品の売り上げ、商店の売り上げ、スーパーの売り上げ、それもなかなか伸びない。そういう状況がずっと続いているんです。

●高知県の年間商品販売額は大きく減少



【地産外商について】

足元の経済が小さくなったら、この経済を活性化していくために何をしないといけないか。外からお金を稼いでくる力を付けなければなりません。地産外商ということで、今、一所懸命、県全体ですすめていこうとしているところです。

「地産外商」地に産する、外で商うと書いて地産外商。これができる力を付けていくことが、是非とも重要だというふうに思っています。高知県のものを県外にどんどん売り込んでいくために、いろんな仕組みを設けている。地産外商公社というのをつくったり、この夏には、アンテナショップを東京に設けるとか、そういうことをして県外に売り込みをすすめていこうと、一所懸命しているところです。

【地域の活性化について】

地域の活性化を図っていくために、何をしないといけないか。いろんな地域がありますが、地域もそれぞれ、人の数が減って、そして、高齢化が段々進んでいってるんだろうと思います。そういう中で、地域をどうやって活性化していくか。やはり地域に仕事があって、若い人が残れるようにしていかないといけません。そういう状況をつくっていくために、地域にどうやって仕事をつくっていくか。

外からお客さんに来てもらう。観光客に来てもらって、その人たちに地元でお金を落としてもらうような仕組みをつくるか、地域にある良いものを外に持って行って売って、お金を稼いで来るようなことをするか。

この地域でも有名なお酒があります。皆さんもご存知のように非常に有名で、県外でも売れている。この地域にありながら県外からお金をどんどん稼いできている。ああいう取り組みがもっともっと増えてこないだろうか。それを、役場の皆さん、地域の経済界の皆さん、そういう方々と一所懸命、取り組みをすすめようとしているところです。

どうやってやっていけばいいか、答えはありません。皆さんのお話もいろいろ聞き、教えてもらいたいと思います。ただ、いずれにしても、ひとつだけ言えることは、縮こまってしまってはいけない。内向き志向じゃいけないと私は思っています。小さい町だから、人口が減っているから、高齢化が進んでいるからこそ外へ打って出て行って、外から稼いでくる力を付けなければいけないと思っています。それを一人ひとりでやるというのは、なかなか大変かもしれない。だから、県庁とか役場と、民間の方々と、手を携えて成し遂げていこうということで、この産業振興計画の取り組みをすすめようとしているところです。

地域の活性化をしていこうとする時、もうひとつの方法として、私は地域が持っているそれぞれの強みを生かしていくことがあると思っています。

地域を元気にする、県を元気にするといった時に、多くの県がよく使う手法として「企業誘致をする」という方法があります。例えば、関東の北部の県に工業団地をつくって企業誘致をやったら、あっという間に工場が来て、埋まりました。

どうしてかというと、東京まで高速道路で１時間、大井の港まで１時間半くらいで行けるようになったからです。交通がものすごく便利になった。そして、そういう地

域に、まだまだ土地はたくさん余っています。だから、わざわざ高知県まで企業が本当に来てくれるか。それは、なかなか大変だろうと思います。

無いものねだりをしてはいけないのであって、高知県にもっと大きな工場があればいいのにと言っても、なかなかそういう工場は来てくれないでしょう。

私たちは私たちの持っている強みというものを生かしきって、それでもって地域の活性化を図っていくということが重要ではないかと私は思っています。そして、産業振興計画はそういうつくりをしています。

一次産業を大切にしよう。そして、一次産業に関連していく、いろいろな加工品への取り組みが、まだ高知県は弱いので、一次産業に関連する自然環境を生かした観光というものを、もっと伸ばしていこうじゃないかと、取り組みをすすめようとしているところです。

【自然環境保護と高知県の強みについて】

経済が発展すれば何でもいい。その結果として、私たちの大切な宝を壊してしまうようなことがあっては、これは絶対いけないのだろうというふうに思います。自然環境をしっかりと保護していくということ。これは、高知県の強みを大切にするということで、もちろん、人が生きるにあたって必要なものを大切にして、子々孫々まで残していこうということでも当然あります。

皆さんが、日ごろより自然環境の問題についていろいろ考えて、取り組みを具体的に実践的にしておられること、これはまた、高知県にとっても全体にとっても、強みを磨くという意味において、非常に意義深いことだと思います。また、大人になって本当に仕事をしていく中で、そういう自然を大切にしながら、自然と共に栄え、これを堅持していくこと。大切にしていくということは大事なことなんだろうというふうに思っているところです。

皆さんが、自然環境保護に向けて、どういうかたちの取り組みをしておられるか。今日もいろいろ、間伐のお話も聞かせていただいた。それから四万十川の水質調査のお話も聞かせていただきました。こんなことをやったらどうかとか、あんなことをやってみたらどうなんだろうかとか、アイディアがあれば、お話を聞かせていただきたいと、そのように思います。

皆さん、高知県を元気にしていくために一緒にがんばっていきましょう。どうもありがとうございました。

３．プレゼンテーション

今回、私たちは高知県を元気にすることをテーマにアンケートをとりました。その結果をもとに生徒会で話し合い、まとめたものを今から発表します。

アンケートをとった結果、問題点で一番多かった意見が、「仕事が少ない」ということでした。このことを話し合ってまとめると、地元に仕事はあるけれど、自分たちがやりたい仕事が少ないということでした。

私たちのやりたい仕事には資格が必要です。医療や美容、調理等、資格を取るためにどうしても四万十町を離れなければなりません。しかし、将来は四万十町へ帰ってきたいと考えています。ですが、帰郷した際、働く場所が少なく、町に活気がないと寂しく感じます。やはり、自分たちの育った町は元気であって欲しいのです。

全校生徒の意見は、大きくふたつに分かれました。

商業的に発展させたい
（四万十町出身生徒）

- 会社を増やす
- 観光業を増やす
- 助成金を増やし会社を手助けする
- お店を増やす
- 高校・大学を増やす

良い所を伸ばす
（県外出身生徒）

- 今ある四万十町の魅力を特化する
- 自然に関する仕事を増やす
- 農業の仕事を増やす
- 今ある特産物や、新しい特産物を作りアピールする

まず、ひとつ目は、「商業的にまちを発展させたい」という考えです。この意見は、主に四万十町出身生徒から多く出ました。会社を増やす。観光業を増やす。助成金を増やし、会社を手助けする。お店を増やす。高校・大学を増やす。

観光業を増やすという意見は、具体的に観光スポットを増やし、仕事や人を集めるということでした。お店を増やすという意見は、具体的に四万十町にコンビニやデパートを設けるというものでした。

ふたつ目は、「良いところを伸ばす」という意見です。この意見は、主に県外出身生徒から多く出ました。今ある四万十町の魅力を特化する。自然に関する仕事を増やす。農業の仕事を増やす。今ある特産物や新しい特産物を作りアピールする。東京などの都会は、商業を発展するために自然を犠牲にしてきました。高知県は、今のままで環境を守り、四万十町の魅力を特化したほうが良いということでした。第一次産業を盛り上げ、四万十町に良心市や、地産地消のレストランをつくることが、四万十町を元気にすることにつながると思います。

高校生としては、コンビニや大型ショッピングセンターは確かに欲しい。しかし、ショッピングモールが建つことで地元にあるお店の経営が困難になり潰れてしまい、そして、ここの雰囲気や自然が失われてしまうのは嫌です。

見方を変えてみると、私たちも含め、地元生は気付いていませんでしたが、四万十町の魅力はたくさんあります。だから、自然や魅力が失われてしまうようなショッピングモールは要りません。帰って来たいと思う地元、変わらない風景であって欲しいのです。

①

これが、私たちの残したい地元の風景です。

①の写真は、大奈路にあるお茶堂です。ここでは観光に来た人たちや地元の人たちが休憩をとったりします。

②

②の写真は、十川の鯉のぼりの川渡しです。この鯉のぼりは全国的にも有名で、約５００匹の鯉のぼりが泳いでいます。鯉のぼりの下では、「よってこい四万十」というお祭の準備がされています。

③

③の写真は、昭和にある三島キャンプ場の写真です。この日は雨が降った次の日だったので水が濁っていますが、普段は青く澄んでいてとても綺麗です。私たちが毎日使っている汽車の線路もここに写っています。

④

④の写真は、夕方に撮っているので霧が多く、あまり見えないと思いますが、川の写真です。

⑤の写真は、中之島公園という看板が素敵だと思って載せました。

⑤

⑥の写真は、私たちがマラソンコースで走る場所です。この写真では、川が濁っていますが、普段は青くとても綺麗です。赤鉄橋も写っています。

⑥

アンケートや話し合いを参考に、誰もが行きたくなる四万十町を目指すためにはどうすればよいかについて、生徒会のメンバーで話し合いを行ないました。そして、四万十町をアピールするためにこんな案を考えてみました。

〇ドラマ作り。四万十町をロケ地にしたドラマ制作を行なう。例えば、ＮＨＫ連続テレビ小説などで四万十町を舞台にしたドラマを撮ってもらい、興味をもってもらう。
〇ＡＫＢ４８のようなアイドルグループを、四万十町から発信する。歌って踊って、四万十町をアピールします。
〇四万十高校と企業がコラボをする。実際に道の駅とおわの社長のほうから、四万十高校とコラボをしたいという意見がありました。
〇商品開発。四万十檜を使ったお箸や弁当箱の、デザインから開発までを自分たちで手がける。
〇地元の野菜を使った新たな料理のレシピを作る。

〇お店経営。高校生が中心となって考えた商品を、高校生が交替制で販売を行う。

アピールの方法としては、現在、アースマラソンでがんばっている高知県出身の間寛平さんを応援するために、私たちの考えた商品を送り、テレビ放送されることを狙いたいと思っています。

〇よさこいに四万十高校全生徒で出場する。また、四万十町で開催されるイベントにも参加し、四万十のアピールをする。

このような取り組みを四万十町が積極的に行なうことで、近隣の市町村に良い影響を与えられるはずです。そして、最終的には高知県全体に広がっていくと考えています。四万十町を元気にすることが高知県全体を元気にすることにつながると思います。

以上で、私たちのプレゼンテーションを終わります。実現することが難しいものもあったと思いますが、高校生の斬新なアイディアを是非参考にしてみてください。ご清聴ありがとうございました。

知事：　今、お話の中でふたつの意見があったということでしたよね。良いところを伸ばす派と、商業的に発展させたいという派とに分かれたというお話がありました。多分、最後は意見が一致してきたのかもしれないですけど。結局、良いところを伸ばすことで、商業的に発展させるということになっていくんだろうと思います。

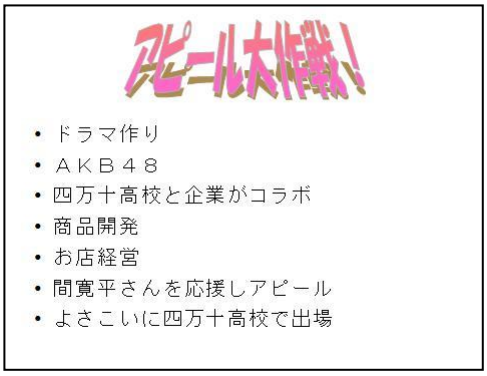
会社を増やそうといって、何もないところに無理やり会社をつくっても、うまくいかないだろう。観光業を増やすといっても、何もなくて観光業というわけにいかない。やはり良いものを武器にして、観光を発展させる。そういうことになるんでしょうから。

結局、良いところを伸ばすということに、みんなも意見は一致してきました？　最後まで対立していた？

生徒：　全校生徒で話し合った結果では、県外生と地元生に分かれてしまったんですけど、それは、生徒会メンバーで話していたら、やはり、地元の良いところを伸ばして、それで商業的に発展していこうという考えになりました。

知事：　そうなんですよね。私もそう思います。

それで、さっきお話のあったところで、資料の中にアピール大作戦で、四万十高校と企業がコラボという話、あるじゃないですか。その下に商品開発というのもありますよね。私は、他の高校でそれをやってものすごくがんばっておられるところをひとつ知っているんです。



「はりまや箸」って知っています？　播磨屋橋は橋だけど、その「橋」を「お箸」にかけて、「はりまや箸」というのを、高知商業高校の学生さんが作って、今、はりまや橋商店街で売っているんです。それから、大丸の前に「てんこす」というアンテナショップができたんだけど、そこでも、売ったりしています。なかなかがんばって商品づくりして、販売しているので、高校生の皆さんにぜひ、商品開発をがんばってやってもらいたいなというふうに思います。

資料のうち、その下にお店経営というのもあるし、企業とコラボというのも、あるでしょう？　例えば、お店の経営といっても、「四万十とおわ」の道の駅。あの道の駅は、高知県の道の駅の中でも、素晴らしいと有名なところなので、そんなところとタイアップしたらおもしろいだろうと思います。

ドラマ作りをする時に、何をテーマにしてドラマ作りをしようと思っていますか？

生徒：　四万十町を舞台にして、自然や、四万十高校も話の内容に加わってくるような、全体的に四万十町をアピールできるような感じになったらいいなと思います。

知事：　ドラマ作りにしても商品開発にしても何にしても、もともと、ここはそういうドラマになるところだと思います。例えば四万十川というドラマの舞台として最適な素晴らしい自然があって、食べるものでもおいしいもの、商品開発の種になるものが、たくさんあるんだろうと思います。

地元には仕事が無い。何も無いところだから、もう本当につまらない、というふうにおっしゃる方を、たまに聞くことがあるんですけど、そんなことは決してない。実は、大きく伸びて発展していくための種となるものは、身近に転がっているんじゃないかなと思います。是非、そういうものを見つけていただいて、ドラマ、商品開発、お店の経営、そういうものに発展させていけるようになっていけばいいですね。

四万十ドラマの社長さん、スタッフの皆さんは、まさにそれを一所懸命やっておられる方々です。新聞バッグがものすごく有名ですけど、あとはもうひとつ、四万十の栗を使っていろんな商品開発とかをされて、県外でもアピールされているでしょう？

東京銀座に「めざマルシェ」というのができていますが、そこの中四国のブースの中でも、四万十のブースがフェース（陳列スペース）が広く、一番アピールしているんです。それぐらい、この四万十川周辺というのは、全国的に知名度、アピール度のあるものだと思うので、是非それをどう生かしていくか、より具体的なところで考えていってもらいたいと思います。私たち大人も、一所懸命やっていきたいと思っています。

教育長：　最初に、県外から来られている生徒さんと、地元の生徒さんが、思いが違って

いた、見る視点が違っていたというのは、逆に言うと、この四万十高校に県外から生徒さんが来られ、そこで交流があり、価値観やものの見方の違う者が集って議論をし、次へ進んで行くということ。こういうことをされているこの四万十高校は、すごく良いところだと思いました。

４．知事への質問

司会：　知事に聞きたいことを事前に、全校生徒にアンケートをとりました。たくさんの意見が出ましたが、時間の都合もありますので、アンケートの集計結果をもとに質問をしていきたいと思います。

生徒Ａ：　知事さんは、昔、東京でお仕事をしていたと聞きましたが、なぜ、高知に戻って知事をしようと思ったんですか？

知事：　知事選挙に立候補しないかと、選挙の直前になって多くの方に言っていただいたので、それに応じて帰って来るということに決めました。ただ、もっと根本のことを言わせていただくと、私は県外に出ていてもずっと高知県のことが大好きだった。いつも高知県のことを考えていたし、高知の友達とはいつも一緒にお酒を飲んだりして仲良くしていた。私は高知県に帰ってくる直前に、総理官邸で仕事をしていましたが、その時に、全国は有効求人倍率が１を超えたというので盛り上がっていた。「良かった、良かった。ついに景気は回復したぞ」と、喜んでいた。ところが、ある高知県の方が来られて、「高知県の有効求人倍率は、たかだか０．４５しかありませんよ」という話を聞いた時、私は衝撃を受けた。一体この高知県はどうなってしまったのかと。それから、一所懸命、高知県のいろんな事を調べました。

そして、高知県庁東京事務所にいる友達と一緒に、いろんな議論をする場をたくさん持ち、そういう中で、何とか高知県のためになりたいという思いを持っていたので、そこにちょうど、知事選挙のお話をいただき、帰ってくることに決めました。

生徒Ｂ：　知事さんは、いつもはどんな仕事をしているんですか。

知事：　私がどういう仕事をしているかというのは、ホームページでいつも公開しているので、是非見てみてください。私の知事室も常にホームページで公開（知事室ライブ中継）しています。

私が日々どういう仕事をしているかというと、昨日は、朝から晩までほとんど会議

で、あとは人に会っていろいろ議論をしたり、そしてまた夜もいろんな会に出て、いろんな方々と話をしました。いろんな人と話をしたり、討論をするか、もしくは机に座って県庁のいろんな部局の人と、会議をやったりとか、そういうことの繰り返しです。

今、一番の課題になっているのは、さっきお話した産業振興計画。これで高知県の経済をどうやって元気にしていくかという話を一所懸命議論しているのと、あともうひとつは、大河ドラマの「龍馬伝」が終わった後でも、ブームが残って行くように、ポスト龍馬伝に向けたいろいろな議論をしたりしています。

あと、教育改革について、教育長と一緒に議論させていただいています。そして社会福祉の問題、日本一の健康長寿県構想というのを作っているので、社会福祉、保健、医療、この充実についてを県庁の各部、各課の職員と、議論するという繰り返しです。

私の日程は高知新聞にも、県庁のホームページにも載っていますし、またそれから、知事室もオープンにしていますので、是非また見てくださいね。わりと県全体の動きを手っ取り早く知るには面白いかもしれません。

生徒Ｃ：　知事さんは、高知県知事になってよかったことはありますか。

知事：　高知県知事、政治家というのは、例えば、私は来年選挙ですけど、２年後の仕事があるのかないのかもわからないような仕事です。そういう意味においては、非常に不安定です。それからまた、知事だから威張っているかというと、今時の知事や政治家ほどに、怒られる仕事はないでしょう。多くの皆さんに怒られるし、例えば、知事宛のメールなんていうのは、ものすごく怒っている人が多いです。「このバカヤロー」「やめちまえ」とかいうようなメールがたくさん来たりするし、毎日いろんな人に怒られていますよ。県庁の中では私が怒っているかも知れないけど、一番世間に接しているのは私だから、世間の人からたくさん怒られている。

でも、良かったなと思うのは、私は、高知県が大好きだし、自分のふるさとのためになりたいと思っている。ふるさとのためになる、なっているんだと、１００％信じきって、かつ１００％それに没頭できるというのは幸せだと思いますね。

私がこの仕事を一所懸命やることによって、もしかして周りの人に迷惑をかける結果になっていやしないかとか、その組織のためにはなっているけど、世の中のためになっているんだろうかとか、いろんな事を大人になったら悩むようになってくると思います。進んでいる道が本当に正しいんだろうかということを、悩み始める時って出てくると思うんですけど、私には今、その悩みがない。迷いがない。全速力で高知県のためにがんばる。そのために努力をしている。そこは幸せだと思います。

生徒Ｄ：　どうやったら知事になれますか。

知事：　高知県知事選挙に出馬し、その選挙に勝ち抜くことです。３０歳を超えないと被選挙権はありませんので、まず３０歳を超えることですね。

知事にどうやればなれるかというより、どういう知事になりたいかによるのではないでしょうか。知事になって何をしたいか。知事になってこれをやりたいっていうものがあり、そして、それが多くの人の共感を得られれば、なれるのだと思います。

生徒Ｅ：　知事の幼い頃の夢は何ですか？

知事：　私はなりたいものがたくさん変わりました。最初、子供のころになりたかったのは、パイロット。それから、お医者さんになりたかった。それから、科学者になりたかった。私は結構、武道とかも好きだったので、武道家になりたいと思ったこともあります。だけど、それから、政治家になりたいと思ったり、いろいろ変わりました。高校３年生、大学に入る時ぐらいに、ある程度方向として、将来は政治家になりたいと思っていたので、政治家になるためにも行政のことを幅広く学びたいと思い、まずは行政官になって、何々省とかに入って仕事をして、それから政治家を目指そうと思っていました。

だけど、もう１回、なりたいものが変わった。３０代になり、結婚して子供ができて、それから、もう私は政治家になるのはやめようと思っていました。財務省では予算編成などの仕事がすごく多かったんですけど､それはそれでやり甲斐があったから、それに没頭しようと思った。だから、東京で長期のローンを組んで、家も買ったんです。そしたら、こういう話になって、お受けしようということになったのです。

生徒Ｆ：　知事さんの好きな食べ物は何ですか。

知事：　私は焼肉が好きです。焼肉も好きですけど、ちょっと年とって、最近は、魚も好きになってきました。高知県の食べ物はたいてい何でも好きです。でも特に、あえてこれが一番うれしいといったら何かというと、土佐赤牛のステーキというのが一番好きかな。私は肉食系。

生徒Ｇ：　今の高知の若者をどう思いますか。

知事：　今日の四万十高校の皆さんは、非常に素晴らしいと思いました。

車中から四万十川等を説明する生徒さん

さっき、皆それぞれ、案内してくれたでしょう。コクヨの森を案内してくれた後、その次の人にバトンタッチして、最後の人は、車中でフリートーキングでしたが、絶え間なくずっと案内してくれたでしょう？ああいうのってものすごく難しいです。なので、あれだけきちんとできる皆さんは素晴らしいなと思いました。

ただ、ひとつ。これは、どの時代の若者ってことでもないんだろうと思いますけど、若い人たちには、当たり前のことを言うようですけど、是非とも夢は大きくもってもらいたいと思います。

「どうせ自分はこればあのもん」と、勝手に自分で蓋をしないように。是非、それだけは若い皆さんに申し上げたいと思っています。舞台が高知だろうが東京だろうが、それは関係ない。自分の可能性に勝手に蓋をしないでもらいたいなと思います。

私からしたら皆さんの年なんていうのは、まだ何でもこれから取り返しのきく年なんだろうと思うんですよ。例えば、身近なことを言わせてもらったら、私は高校生から大学にかけて、英語が大嫌いだった。だけど、仕事の関係で外国で４年間暮らしました。やむにやまれず生きていくために一所懸命、英語を勉強した。そして、ある程度、読めるようになったし、しゃべれるようになり、聞けるようになりました。それができるようになったのは、３０歳でした。だから、まだ皆さんの年齢だったら、いくらでもやり直しがきく年齢だと思います。是非とも自分の可能性に蓋をしないでがんばってもらいたい。どちらにしろ、自分っていうのはどれくらいのものかって考えないといけない、判断しないといけない時期は、ある程度の年になったら来ますけど、皆さんの時はまだがんばってもらいたいと思います。

生徒Ｈ：　尾崎知事が高校生の頃には、高知県にはどのような自然環境がありましたか。

知事：　私たちが高校生のころは、今より自然環境は、もしかしたらよくなかったかもしれません。まだ公害から抜け出したような、その自然環境を大切にしようとかっていう考えが出てきはじめた、すぐくらいじゃないかなと思います。

例えば、高知市内の江ノ口川。あの江ノ口川は私が高校生ぐらいの時は、ドブ川だった。魚なんか全然いなかったです。けれど今、あの川をきれいしようって一所懸命やって、鯉とか泳いでいますよね。随分よくなったと思います。

私にとって、馴染み深いのは、鏡川です。私は、父母は幡多のほうなので、この四万十川にもよく来ましたけど、子供の頃よく遊んでいたのは鏡川です。今日、久々に

水の中にドボドボって入ったけど、ああいうふうに水の中に入っていって泳いだり、石を転がしてダム作ったりとか､船を作って浮かべて､石投げて沈めて遊んだりとか、そんなことをたくさんしました。

今のほうが、自然環境を大切にしようという考え方が、ものすごく広がってきているんだと思います。大変だったのは４０年代。成長一本やりで自然を犠牲にしてきた時代というのがあって、それに対していろいろ問題が起きて反省をして、自然を大切にしようという流れが出てきて、それが今、ますます大切にしようという考えが出てきているのだと思います。これは大切にしていきたいですね。

生徒Ｉ：　高知の鰹というのは、とても魅力的だと思います。そういう魅力的なものを外に売り出そうという、地産外商の取り組みは大変いいと思います。
（産業振興計画パンフレットの）３ページ目にある商品の磨き上げというものなんですけど、当然、商品を作るうえで第一次産業というのは、手を入れる部分なんでしょうけど、その他にも磨き上げるというのは、良い商品を作ろうと思ったら、その第一次産業をつくる環境も良くしようということですか？

知事：　そうでしょうね。

生徒Ｉ：　じゃあ、今は環境についてどのようなことを考えていますか。

知事：　なぜ高知の魚がおいしいか。鰹はなぜ高知の鰹がおいしいか。それは、釣り方が違う。一本釣りだからです。網だと、魚がギューッと押し詰められて、身が焼けちゃったり変形したりして、おいしくなくなりますね。けれど、一本釣りで釣り上げるから、その魚の形が崩れない。それと、魚はたたきつけられてすぐ気絶して割と早くしめられるので、変な話ですけど、苦しんで死ぬとあんまりおいしくなくなるんです。そういうところもあって、その釣り方が違うというのがありますね。

黒潮に近いというのもありますね。もうひとつ、海が豊かというのもあります。特に鰹みたいな回遊性の魚より、もっと沿岸、近いところにいる魚のほうがそうだと思いますけど、海が豊かなのでおいしい魚が捕れます。

何で海が豊かか。川がきれいで豊かだから。なぜ川がきれいで豊かか。森がきれいだから。しっかり間伐をして豊かな森をつくって、そこからいい養分が流れ出して行くことで、それが川をきれいにし、そして川が海を豊かにしていく。

森と川と海。この連携についてわかったのは、宮城県で研究をして、森の間伐をしっかりすると、宮城の海でとれる牡蠣がおいしくなることが、科学的に証明されたからです。

今、四万十川でも、そういうことを盛んにやろうとしていますよね。間伐をしっかりやっていく、森を大切にするということ。森と海は恋人です。森を大切にしていくことは、川と海を豊かにしていくことにつながっていきます。

その他にも、四万十川という川自体を大切にしようと、代掻き（しろかき）なんかをやったりする時､濁水を流さないように､愛媛県の人にもご協力いただいたりとか、そういうことをしたりしています。いろんな取り組みをしないといけないと思いますけど、代表的なことを挙げろと言われると、そういうことがありますね。

生徒Ｊ：　今､ワールドカップで盛り上がっていますが､知事はサッカーを観ますか？　また、がんばっている選手たちをどう思いますか。

知事：　サッカーは観ます。私は、あの日本代表はすごくえらいと思う。つらかったと思いますよ。あのワールドカップに出る前、韓国にも、他のところにも負けました。岡田監督も選手も、ものすごく批判されていましたよね。だけど、それを乗り越えてしっかり結果を出した。立派なことだと思うし、拍手喝采ですよね。やっぱり本当の強さというのは、ああいうもんだなと思います。

生徒Ｋ：　よく怒られることが多いと言っていたんですけれど、そういう時は、ショボンってなったりしないんですか。

知事：　それは決して嬉しくはないですね。嬉しくはない。ですけど、それを聞いて、今やっていることを直し、より良いものをやっていこうとすることが私の仕事なので、そこでしょげてクシュンとなったらいきませんね。怒られたことに対して、どうしていこうかということを、次の手を考えることを常にやるようになります。だんだん慣れてくるというか、図太くなってきます。

とにかく、怒られたことに対して、それで改善しないといけない場合と、そうじゃない場合があると思っていますけど、多くの場合は改善しないといけない場合が多いです。その改善策をどうやってやっていくかということを、考えるようにします。

生徒Ｌ：　尾崎知事が、県民の皆に求めているものはありますか。

知事：　そこに産業振興計画のパンフレットの、高知県産業振興計画と書いてあるところのすぐ下に、小さい字で「みんなが主役」って書いてあるでしょう？

高知県の経済、ずっと下降の時代が１０年くらい続いてきた。いろんな事について、「どうせやったち、いかなあや」という意見がでてきがちな環境があった。

例えば、龍馬伝。「これが放映されるから、あわせて、土佐・龍馬であい博というのをやって、多くの観光客を呼んで来ようじゃないか」という話をした時も、やっぱり、「どうせやったち、いかなあや。どうせ、また失敗するぞ」「そんなことはやらんほうがえい」と、そういう意見もあったりした。ですけど、それなら成功させるようにしようじゃないかってみんなで、一所懸命、知恵を出したら、今、たくさん観光客の皆さんが来て下さるようになりました。

高知県の皆さん一人ひとりにいろいろな立場があって、全員とは言えないかもしれないけど、是非、多くの人に「どうせやったち、いかなあや」じゃなくて、今、高知県にある強みを生かして､何とか高知県を元気にするためにがんばろうじゃないかと、前向きに考えていただきたい。前向きにしていただくようになること。これを大いに期待しています。

ただ、その時に、一方的に県民の皆さんに､「皆さん、もっとがんばって下さい」だけじゃ、すまんだろうと思います。

ものすごく経済が発展していて、それから、ものすごく好景気が続いている。そういうところは、民間の競争に１００％任せたほうがいいという場合もあるかもしれません。だけど､高知県の場合は､官と民で手を携えて物事を進めていくということが、今は、求められているんじゃないかと思っています。

県民の皆さん、一人ひとりががんばっていただきたい。我々も誰よりも、高知県庁で一所懸命汗をかいてやっていきますから、一緒にやっていきましょう。

５．閉会

生徒：　**今日は知事とたくさんお話しができ、貴重な体験が出来ました。この座談会に向けての準備の中で、みんなで話し合いを進めていて、私は改めて地元の良さに気付くことができました。人口も少なくなっているし、何もないようなマイナスのイメージしかもってなかったんですけど、やはりここにしかない大切なものが、自慢できるものがたくさんあると思いました。地元をずっと守っていって良さを広めていくためにも、私たち高校生も何かできることから積極的に参加していきたいと思います。**

尾﨑知事にも県外に高知の良さを伝えてもらえるようにがんばってもらいたいです。

今日は本当にありがとうございました。

教育長：　今日のために準備をして、地元を元気にしていこうということを、みんなで考えたこと、素晴らしいことだと思います。

元気にしていくためにはいろんな役割があります。自分には何が出来るか、ということを皆さん、考えていただいたら、またその中から新しいものが出てくるのではないかと思います。ひょっとしたら、四万十の町長さんになって、やっていくと

いう方がおるかもしれませんし、さっき知事になるといっていた人もおりました。３０才にならないといけませんので、１２年後にもし、尾﨑知事がまだやっておって、「いや、それじゃいかん、俺がやる」と言うたら、選挙で勝って知事になって地元を元気にしていくと。そういうふうに夢をもって、何でもポジティブに取り組んでもらいたいと思います。どうかよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

知事：　四万十高校の皆さん、本当に今日はありがとうございました。昼食会から始まって、四万十川に一緒に入って、コクヨの森を見せていただいて、その後ここで発表も聞かせていただき、意見交換もさせていただいて、非常に盛りだくさんで楽しかったです。

皆さんのプレゼンしておられる姿とか、案内している姿とか、それから今、ここから見ている皆さんのお顔とか見ていても、本当に、皆さん素晴らしいと思います。

おそらく日本一の自然環境の中で学んでおられるということも、皆さんの誇りなんだと思いますし、これだけいろいろプレゼンとかしっかりできるということ自体、大人になってものすごく役に立つことだろうと思います。そういう素晴らしい皆さんと今日出会えたことは、私にとっても非常に幸せであります。

皆さん、一時県外に出て行かれることもあるでしょう。そして、そのまま出たっきりになることも、帰って来られる場合もあるでしょう。いずれにしても、是非とも、この高知県を、それぞれの立場で元気にするためにがんばっていこうという思いでいていただきたいと思います。

県外の地からやれることだってたくさんあります。高知に残って、皆さんが高知を元気にする主役になっていただくということもありますでしょう。皆さん、是非がんばってください。一緒にがんばっていきましょう。

今日はどうもありがとうございました。